

北海道における、ゆるやかにつながってしまう場づくりと

各種団体の運営能力向上のための伴走型支援

報告書

2025年3月

特定非営利活動法人イシュープラスデザイン

目次

1章 孤独・孤立の実態

1-1 本人の孤独・孤立の実態と生活の楽しみ調査

1-2 孤独孤立の実態と回避プロセス

2章 他者とながってしまう場の企画運営

2-1 場の企画

2-2 場の運営

3章 つながる場づくりのための企画運営ノウハウ化、デザイン支援

3-1 つながる場づくりのための企画運営のノウハウ

3-2 デザイン支援

4章 ノウハウ移転

4-1 ノウハウ移転先の公募

4-2 ノウハウ移転と伴走型支援

はじめに

本事業は、小さな個人の楽しみを基盤として、誰かとつながってしまう場づくりとその場の運営能力向上を支援するため、モデル自治体である更別村の現状と孤独孤立対策を整理する。

更別村は人口 3100 人、高齢化率約 34%となっている。24 地区があり、2つの小学校と 1つの中学校がある。独居世帯は平成 7 年に 87 人だったが、20 年後の平成 27 年には 135 人となり、20 年間で 4.8 倍となった。平成 29 年度に 386 世帯となり増加し続けている。単身世帯と夫婦のみの高齢者世帯は、平成 27 年で 280 世帯となっておりこちらも増加している。

つながりの輪が小さくなったのは、農業の機械化、車社会が影響しており、近年は移住者が人口の 2 割程度に上り、地域のつながりが無い住民も増えている。こうした現状を踏まえて、孤独孤立の実態を調査した。

なお事業の実施にあたっては、村内で多世代共生のまちづくりに取り組む株式会社まめーず（令和 6 年設立）を支援しながら、特定非営利活動法人イシュープラスデザインが課題の抽出から実行までのノウハウを提供する等して取り組んだ。

1章 孤独・孤立の実態

1-1 孤独・孤立の実態と生活の楽しみ調査

更別村の孤独孤立対策に関する現状や課題を調査するため、関係する行政各課、民間事業者等にヒアリング調査を実施しました。一方で住民には、社会参加の可能性を調査するため、日常の中にどんな楽しみがあるのか等のエピソードを調査した。

①行政や民間事業者のヒアリング調査（全10箇所）

9月10日

	時間	場所	対象
1	11:00	温泉ロビー	更別村企画政策課
2	13:00	温泉ロビー	更別村社会福祉協議会
3	15:00	福祉の里総合センター	子更別村育て応援課 更別村保健福祉課
4	17:00	診療所	更別村診療所
5	17:00	診療所	特定非営利活動法人かしわのもり (訪問看護)

9月24日

	時間	場所	対象
6	11:00	総務課	更別村総務課

10月7日

	時間	場所	対象
7	11:00	どんぐり保育園	認定こども園どんぐり保育園
8	13:00	福祉の里総合センター	発達支援員
9	14:00	農村環境改善センター	更別村教育委員会

10月31日

	時間	場所	対象
10	11:00	etone	子ども等を支援するカフェ

【高齢者に関する孤独孤立対策】

診療所

- ・更別村の医療は、難病や精神疾患の人など、焦らずに見守っている（排除しない医療）。
- ・高齢者の病気や認知症が原因で、コミュニティから関係性を引き裂かれることのないように努めている（診療所）
- ・2009年に中学校の5人に1人が不登校になった。保育園、幼稚園、学童、小学校、中学校、高校の関係者が集まり、原因を探った。抑圧された第二世代のこどもたち。小さいコミュニティの中で育つ弊害や評価軸が固定化されてしまうこともある。

訪問事業

- ・独居の110人に訪問事業を行っている（うち10人は65歳未満）
- ・独居高齢者100人は見守り訪問を実施
- ・介護予防などの教室に不参加、要支援以外が対象。

外出機会の提供

- ・高齢者が外出のきっかけ（運動教室、カラオケ、麻雀）づくり
- ・社会福祉協議会はカフェゆうゆの中に「お困りごとの相談所」を設置、気軽に相談できるようにしている
- ・マイナンバーカードに地域ポイントを紐づけ（外出先でポイントがたまる）
- ・村民バスの使用の実証（高齢者の立ち寄りたい場所をつなぐ自動運転）
- ・出かけにくい高齢者のデマンド交通（乗り合いタクシー）
- ・スマホを貸出し、デマンド交通の連絡等に使用

学ぶ機会の提供

- ・保健福祉課と連携して認知症対策

民間の支援

- ・山田商店の米の配送（無料）
- ・郵便局における高齢者見守りサービス

住まいの支援

- ・シルバーハウジング（32部屋）があり、自分で生活できる人が入居

情報連携

- ・シルバーハウジングに電力センサーを設置（契約者のみ、現在20世帯）、訪問事業者と情報共有（将来は保健師、医師との情報連携を目指す可能性を模索）

【子育て世代・子どもの孤独孤立対策】

親のサポート

- ・子育て応援課による子育てに悩む親やシングルマザーのサポート
- ・カフェ「e-tone」は母親たちが相談したり、息抜きができる場所になっている。
- ・発達支援員、保育園、学童における親のサポート

発達支援

- ・発達指導員2名を雇用し、発達障害の早期発見に取り組む
- ・早期発見しその子の特性を考え伸ばす

保育園・学童保育

- ・保育園と学童保育では発達に問題がある子供を早期発見・療育することで、自分の利点をのばし、社会で生きやすくし、親の理解と受け入れを支援
- ・社会の実体験型の保育として自分のことは自分でできるようにしている。
- ・発達に障害がある子供を早期発見し、早くから周りの大人がその子のことを理解して対応することで、人への信頼感や安心感を損なわず成長することをサポート。
- ・子供が集まる場所に発達支援員が出向き、親が相談しやすい雰囲気を作る。親が自分の子供に支援が必要だと理解するのは難しいが、子供が困らないで学校生活をするために支援を積極的に選択する人もいる。

小中学校

- ・地域の中で、子供から高齢者までが交流する場を設けることで、孤立孤独対策になる。コミュニティスクールの地域学校協働活動「末広学級」は、地域の高齢者同士が集って趣味のサークル活動を行い、小中学校で授業のサポートを実施。
- ・教育委員会は今後、電球を変えるなど日常的なことを行うのが困難な高齢者に、中学生や高校生など若い人がボランティアでサポートするようなシステムを構築したい。
- ・山田医師が発起人となった「生と死」などを人生のテーマを扱った「さらべつホープ」の授業を小中学校で行い、子供たちだけでなく、教師の意識にも変化があったということも成果の一つ。
- ・村を出た子供たちが不健康になって帰ってくる。自分自身を大事にながら、ライフスキルを高めていく授業として、保健師と共にライフスキル教育「さらべつホープ」をスタート。

これからしたいこと

- ・将来的にはマイナンバーカードに地域ポイントなどの情報を連携させたい。
- ・「個別避難計画」は避難所にあたり単身の高齢者を連れていく人をマッチングさせるシステムを作成したが、町内会が機能しているか、隣近所のつながりがあるか等のハードルがあり、マッチングが難しい。関係性構築するが必要である。
- ・家族には一緒にいても孤独の場合がある。行政の目、福祉の目、児童福祉の目で見、横のつながりをつくりたい。
- ・子供がいろんな大人と接することができる、家族と問題があっても逃げてこられるような寺子屋のような場所をくりたい。

課題

- ・転入者や村外で働く住民は顔が見えず、見えない人にたどり着くのが難しい。
- ・子育て世代も孤独を感じている。シングルマザーで転入し、仕事の関係で地元のつながりが持てない。
- ・村内に学校に行っていない子も少なからずいる。
- ・幼稚園、保育園、小学校との連携はあるが、中学校も連携を広げたい。マンパワーがないので、まだ進められずにいる。
- ・優先度の高い高齢者だけでなく、そのほかの高齢者の状況も把握したい。
- ・高校生が悩みを打ち解ける場所がない。
- ・発達に問題を抱えている子供が多い。
- ・健康的な食生活を送っていない。
- ・中学校の登校拒否率が高く、問題になったことをきっかけに、小中学校、保育園、医師など、さまざまな職種の人たちで定期的に集まり、原因を探った。更別、十勝から都会に出たときに、ギャップに苦しむ人も少なくないため、自己肯定力を養っていくことを重視している。
- ・子供たちがいろいろな大人と接触する場所がない。
- ・子育てに悩むお母さんたちが多い。行政にはなかなか相談に行けない。
- ・障害をもっている子供たちが大人になっても住み続けるのが難しい雰囲気がある。
- ・発達障害の支援のサポートを受けている子供の兄弟が孤立孤独になる危険性がある。
- ・社会経験のない子供たちが働きに出て、トラブルになるケースがある。
- ・運営資金を継続させることが難しい。
- ・困っている子供や親がいたら、発達指導員と連携して様子をみている。
- ・「働き方改革」により教師が子供たちを十分サポートできず葛藤している。
- ・発達障害の療育に正解はなく試行錯誤している。

②住民のエピソード調査

更別村在住の20～90代の100名にヒアリングを実施し、うち40名から回答があり、84種類の可能性を抽出した。可能性は、2種類あり 1つは生活の知恵に関するもの、もう1つは日常にある小さなしあわせに関するものがあつた。

	だれ	なに	どうする	なぜなら	名前	年齢	写真
1	わたしは	使った後の割りばしを	植物の支えにしている	買い物に行けないから	無記名	—	
2	わたしは	生活に必要な情報の全てを	日付ごとに分けて壁に貼る	忘れない様にするため	無記名	—	
3	わたしは	1円玉や5円玉を	焼酎ペットボトルに集める。	食事に困っている子どもに寄付したいから	無記名	—	
4	わたしは	娘の写真を	並べる	会いたいから、側にいて欲しいから	無記名	—	
5	わたしは	ケアパットを	洗って使う	もったいないし、まだ使えるから	無記名	—	
6	わたしは	トウモロコシを	3食、主食にする	とてつもなくおいしいから	無記名	—	
7	わたしは	和服を	着る	鹿追の北島三郎だから	無記名	—	
8	わたしは	ラブレターを	書く	夫が好きだから	無記名	—	
9	わたしは	転んでめがねを	無くしたけど、買わない	私の仕事の仔牛だけは、見えるから困らない	無記名	—	
10	わたしは	みどりのコートを	夏も着る	夫が似合うと言ったから。暑くないよ	無記名	—	
11	わたしは	週に一回	俳句をする	若い人のパワーを吸い取れるから	無記名	—	
12	わたしは	デイスタッフにおいなりさんを	作って食べさせる	いつも腹をすかせているから。美味しいとたくさん食べてくれるから	無記名	—	
13	わたしは	外食を	週一回だけする	ずんごい糖尿病だけど、好きなものを食べ続けたいから	無記名	—	
14	わたしは	トイレにずーっと	座っている	ここなら濡らさないから	無記名	—	
15	わたしは	抜いた草を	抜いた場所においておく	そこから新しい雑草が生えてこないから	無記名	—	
16	わたしは	居間に	寝ている	なにかあったときに早く気づいてほしいから	無記名	—	
17	わたしは	その日の観たいTV番組を	毎日、メモしている	TVが大好きだから	無記名	—	
18	わたしは	氷川きよしを	推している	好きだし、歌うことで元気になる 好きな物を食べたいから…	無記名	—	
19	わたしは	新しい下着を	大切にしまっておく	入院の時、人前で新しい下着を着たいから	無記名	—	
20	わたしは	自分の部屋を	はなかなだティッシュや薬のあき袋に囲まれて寝る	落ち着くから	無記名	—	
21	わたしは	庭に来る人が見える	庭の黄色のはなだけをからだ中につけているけど、いなくなつて欲しいとは思わない	悪い事はしないし、花が好きなんだから、悪い人じゃない	無記名	—	
22	わたしは	大事なものを	ベッドにおいておく	ベッドには毎日入るから、目につきやすいので	無記名	—	
23	わたしは	デイにエプロンを	持っていく	ごちそうを作るのが仕事だから	無記名	—	
24	わたしは	入れ歯を	冷凍庫で冷やす	口に入れると気持ち良いから	無記名	—	
25	わたしは	タバコを	半分だけ吸う	後から残りの半分を吸えるから	無記名	—	
26	わたしは	アイドルの雑誌の写真を	何枚もとっておいて	デイにもってくる かっこいいので、みんなにも見て欲しいから	無記名	—	
27	わたしは	毎日ラジオを	聴く	エッセイを書くのに、時事ネタが欲しいから	無記名	—	
28	わたしは	孫に	2000円をあげる	孫が喜ぶから あげたいから	無記名	—	
29	わたしは	歩行車にふくろを入れて	物をぶら下げる	手に持って歩けないし、何回も行ったりきたりしなくてもいい	無記名	—	
30	わたしは	新しい下着を買ってもらっても	タオルで下着を作る	入院の時、新しい下着を着たいから	無記名	—	
31	わたしは	訪問看護が来たらマスクをはずして	唾を飛ばしながら話をする	うれしくて、おしゃべりだから	無記名	—	
32	わたしは	台車にかごを	つける	ゴミを拾いながら、押して歩くことができるから	無記名	—	
33	わたしは	ナースコールを	何度も押す		無記名	—	
34	わたしは	トマトを	持ってくる	わたしはトマトは嫌いだけど、職員に食べて欲しいから	無記名	—	
35	わたしは	おとりよせを	みんなに配る	楽しいから	無記名	—	
36	わたしは	腰ひもを	電気の紐の延長にしている	あの電気紐に手が届きにくくて、腰ひもは引っ張っても手が痛くならない。優しい紐だよ	無記名	—	
37	わたしは	ゴルフのバッテリーを	逆さにして使っている	杖にしたら丁度良い持ち手になる	無記名	—	
38	わたしは	パイプ椅子の背もたれを	ベッド棚にしている	寝相が悪くて、手足が当たっても痛くないから	無記名	—	
39	わたしは	碁盤を	手すりの台にして使っている	持ち運べない程の重さではなく、軽すぎないから丁度良い塩梅でもぐらぐらするから慎重に扱わないとね。これよりハビリになるよ(笑)	無記名	—	
40	わたしは	ドラム缶を	改造して二つくっつけた	大量に鮭と鮎を炙るのに丁度いい	無記名	—	
41	わたしは	使わなくなったレンジを	赤く塗って玄関先に置いている	ドアを開めた雨風が入らないから郵便ポストに丁度良い	無記名	—	
42	わたしは工芸仲間と	一頭分の革を買い	財布や鞆、鏡、時計、温度計、ベルトを作っていた	夏は農家で、冬に工芸を習うのが楽しかったから	原田 秀子	—	
43	わたしは	静岡の友だちと	特産品を贈り合う	友だちから送られてくるみかんが楽しみなから		—	
44	わたしは	できる限り	麻雀をしたいと思っている	目（勘）がよくなるので	樋口 博英	—	
45	わたしは	毎年	豆をまく	みんながこの豆が美味しいと言うから	梶 明	—	
47	わたしは	ホットクックで	料理を作る	その間に本を読んだりできるから	梶 千鶴子	—	

48	私の家には	毎月平均60名の方が来るので	珈琲を飲む	わたしの見守りも兼ねているから	無記名	—	
49	わたしは	毎日	テレビを観ている	テレビとお友達だから	山口 静子	—	
50	わたしは	毎日	お散歩をする	お友達と会って手を振ることが楽しいから	西久保 スギノ	—	
51	わたしは	息子に	毎日洗濯物を出しなという	気持ちがすっきりするから 掃除や雑草抜きも好きで掃除は気になったら、雑草抜きは3日に1回行う。	中井 節子	—	
52	わたしは	あほばいい	あほは長生きすると思っている	頭を使わないから、内臓が壊れることもない	無記名	—	
53	わたしは	孫と	遊ぶことが好き	孫と遊ぶことが雪返りの方法	井口 芳江	92	
54	わたしは	農業を	78年間行っている	脳かという仕事は命の恵み	岡田 芳博	75	
55	わたしは	折り紙で	お花をつくる	きれいと言われるから (最初は車の袋でつくっていた)	山崎 昇	—	
56	わたしは	野球が好きで	ラジオをお風呂まで持っていく	日ハムの熱狂的なファンだから(作品を収納する箱がほしい)	中村 順子	—	
57	わたしは	夢の目蓋を	使っている	病院に行くことと痛いことをされそうで怖いから	無記名	—	
58	わたしは	お花が大好きで	よくお手入れをしたり買いに行く	気持ちが落ち着くから	長崎 トメ子	—	
59	わたしは	シクラメンが特に好きで	10月になると買いに行く	クリスマスに咲かせる習慣になっているから	無記名	—	
60	わたしは	お友達と	2か月に1回くらいご飯を食べに行く	人生を楽しみたいから (でも溺溺する物価、上がらない年金)	無記名	—	
61	わたしは	ガムテープを	糊こにして机の横につけている	コロコロより便利だし、一巻一年は持つから	石原 哲四郎	—	
62	わたしは	文庫本に出てくる地名を	大江戸散歩MAPと地図で探らし 合わせ楽しんでいる	古い世界、ものが好きだから	無記名	—	
63	わたしは	朝起きてからずっと	本を読んでいる	活字が読めると自信がつくから (辞典も近くに置いていて、漢字を覚えていく)	佐藤 喜一	—	
64	わたしは	花を	育てる	心が安らぐから	細越 旦那	—	
65	わたしは	絵手紙を	書いている	遠くの人とやりとりができるから	細越 奥さん	—	
66	わたしは	ジュースを	おごってあげたい	コミナスは孫だと思っている	カワセミヨコ	75	
67	わたしは	治らない病気	生きている	でも毎晩の晩酌という楽しみがある	ササキ	93	
68	わたしは	近所3件で	つながりネットワークを作った	入院のときの情報交換をしている	タガワ	70	
69	わたしは	俳句をする、週一	俳句は	ポケ防止の軍だから	タキガミトモコ	85	
70	わたしは	人生を	プラス思考でとらえている	世の中は暗いニュースが多いから	サトウ	85	
71	わたしは	結婚について	男は愛嬌、女は愛嬌	愛嬌なくして拾ってもらえない	サトウ	85	
72	わたしは	車が	栄養剤だ	20代ごろ車のレーサーだった	林さん	70	
73	わたしは	品のある	車のイベントにしかいない	車が傷つけられると嫌だから	林さん	70	
74	わたしは	撮影は	車と一緒に撮りたいと思っている	我子にはお腹いできないがコミナスには訪ねてできる一枚を撮影してもらえそうだから	林さん	70	
75	わたしは	毎週、イオンの火曜日で	新作のガジェットを遊ぶ	こんなにうまいものがあるとは知らなかったから	無記名	85	
76	わたしは	息子の	悪口を言いつくす会を定期開催	リタイアした農家の情報交換、息子経営の愚問を言うときスリッパするから	オカダ	75	
77	わたしは	毎日	事務所に来る	妻が仕事でいないから	フジサワ	71	
78	わたしは	コーヒーを	振る舞う	地場の人に集まれる場所がほしいと言われたから	ハセガワ	80	
79	わたしは	コーヒーカップが	溜まる	亡き妻のコレクションだったから	ハセガワ	80	
80	わたしは	新曲を	練習する	いつも同じ歌だとみんなが飽きるから	ハセガワ	80	
81	わたしは	パークゴルフ人口を	増やしたい	昔仲間だったおばあちゃんが脳梗塞で倒れた	カワセユキオ	85	
82	わたしは	パークゴルフを	再開したい	90歳のプレイヤーを見て、わたしのリハビリの目標となった	ワタベクミコ	75	
83	わたしは	久しぶりの	パークゴルフは	施設にいとと同じ人とか付き合えないが仲間と再開し新鮮な空気を吸った	ワタベクミコ	75	
84	わたしは	こんな私でも	誰かの力になりたい	仲間も誘って若者やマスターに協力したい	ハシモト	85	
85	わたしは	お菓子	つくる	イベントでお菓子を出すと退院直後のお父さんのリハビリになるから	ハシモト	85	

ヒアリング調査およびエピソード調査のまとめ

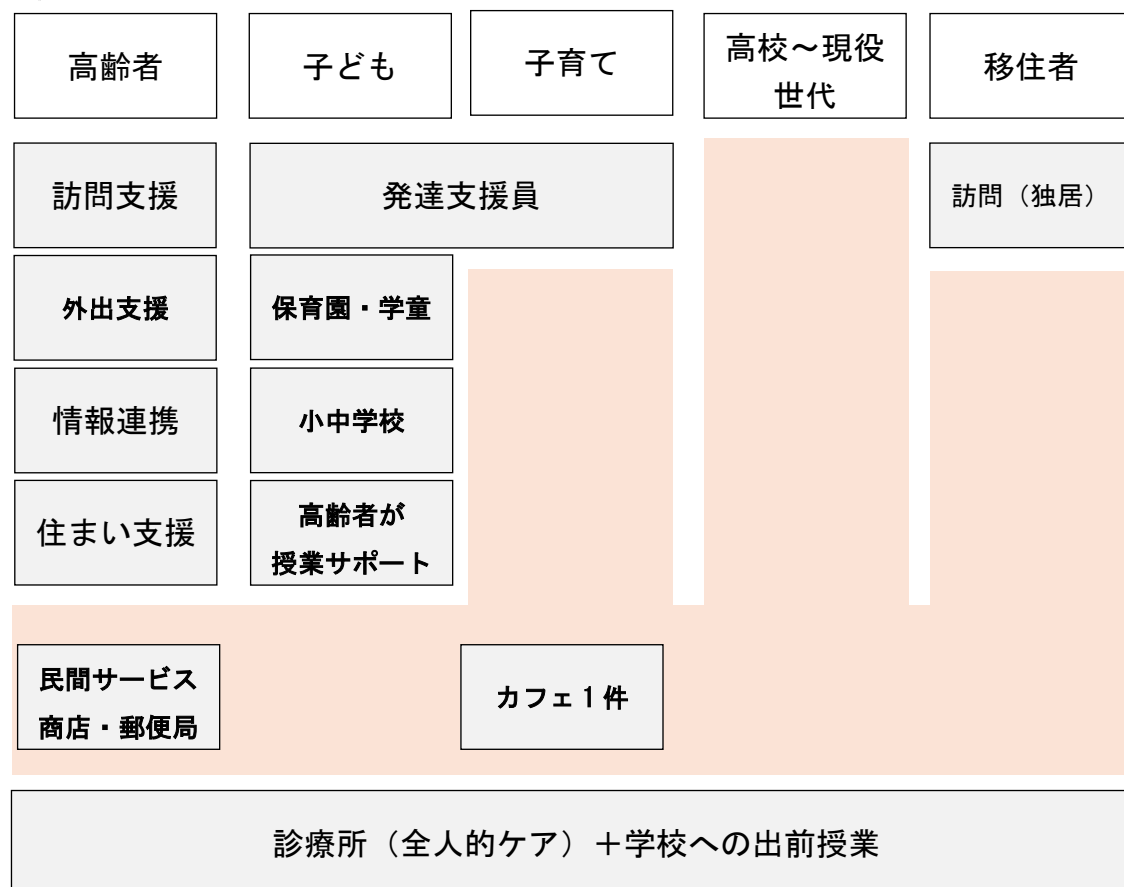
- ・高齢者の支援は外出のきっかけをつくるという具体的な取り組みがあり、充実しはじめていますが、子どもや若者に関する具体的な取り組みは多くない
- ・多世代を対象とした取り組みも少なく、孤立孤独を回避する何かに取り組みたいと思っているものの、行政や医療福祉関係者が取り組むには時間がかかる。
- ・住民なりに日常における知恵やゆしみがあ、これらを可能性の芽とした社会参加のきっかけとなる企画が必要である。

1-2 孤独孤立の実態と回避プロセス

孤立孤独を回避するための現状のサービスとその隙間について以下に図化した。高齢者を筆頭として、生活に関する課題は公的なサービスが充実しつつあるものの、若い世代の学校や仕事に関する課題に対しては、選択肢が少なく担い手もない。また多世代のつながりをつくりやすい、地域活動や趣味活動などを後押しする有償無償のサービスはほとんどない。そこで公的サービスの隙間を埋めていくような、多世代がともに過ごせる活動や場づくりに取り組む。

多世代がともに過ごせる活動や場づくりとしては、エピソード調査から日常生活の動線上にある多様な人と、対話する機会、学ぶ機会、愉しむ機会が求められている。実施にあたって連携する主体は、以下の次ページの表を参照。

現状のサービスと隙間（)



生活の動線上にある機会とは、イベントではなく予約せずに気軽に参加できて、所要時間が1～2時間程度、対話する機会、学ぶ機会、愉しむ機会が盛り込まれているものが求められている。

以下は、全ページのような機会を創出するために、連携する主体をリスト化した。

連携主体の一覧

	連携分野	拠点	主体
1	シニア	福祉の里	社会福祉協議会
2	親子	福祉の里	子育て応援課
3	親子	福祉の里	保健福祉課
4	多世代	診療所	診療所
5	多世代	みどりの家	訪問看護かしわの森
6	多世代	みどりの家	訪問介護サンデーズ
7	若者	みどりの家	北欧雑貨店クーシルヤルヴィ
8	子供若者	商店街	カフェetone
9	子供	農村環境改善センター	教育委員会
10	多世代	役場	企画政策課
11	多世代	役場	総務課
12	シニア	商工会議所	商工会
13	多世代	温泉ロビー	サンデーズカフェマスター
14	多世代	福祉の里	おかし倶楽部
15	シニア男	商工会	更別麻雀倶楽部
16	多世代	郵便局	上更別郵便局
17	多世代	郵便局	更別郵便局
18	多世代	温泉ロビー	すこやかサロン
19	多世代	ガソリンスタンド	オカモト

成果①本人の楽しみ等の可能性を調査し孤独孤立回避のプロセスを可視化
[客観的指標]

- ・100件の住民ヒアリングと楽しみ等のエピソードから86種類を抽出
- ・孤立孤独を回避する対策の隙間を制作し、解決方策をまとめる
- ・連携する主体のリスト化（官民あわせて19主体）

2章 他者とつながってしまう場の企画運営

2-1 場の企画

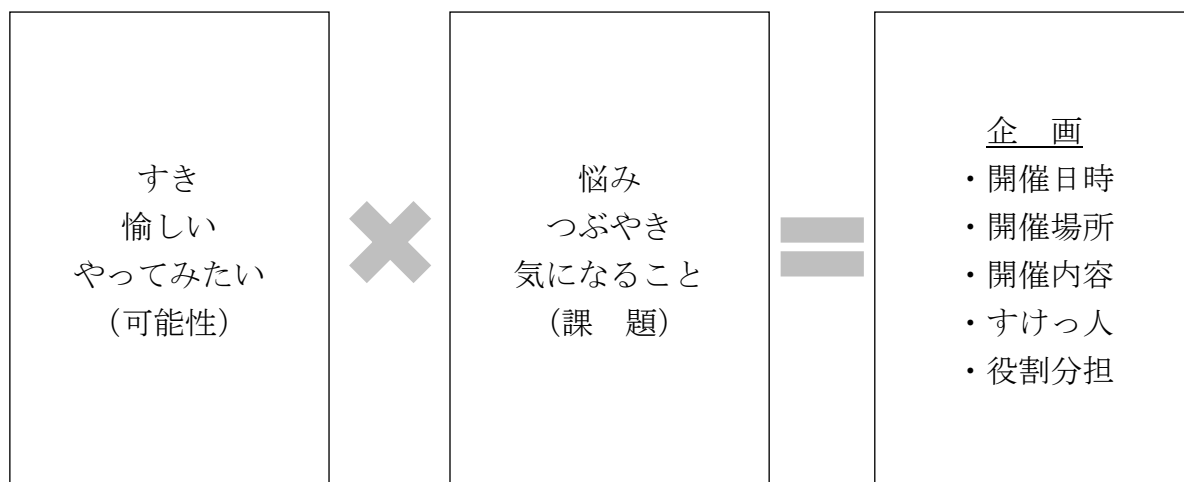
企画にあたっては、エピソード調査の中でも「楽しい」「すき」をテーマとした場を企画した。企画は、月1回程度、全5回を多様な世代に対して実施した。

月	対象	内容／参加年齢層	人数
10	町内会	Eスポーツ（ボールリング）  	20人 (2人)
11	多世代	カラオケ大会／3～88歳  	52人 (4人)
01	女性	お菓子づくり／20～80代  	20人 (2人)
02	多世代	認知症世界の歩き方カフェ／10～90代  	64人 (6人)
	男性	麻雀大会	32人

			(3人)
		小計 合計	188人 (17人) 205人
			155人

() はボランティアスタッフの人数

企画にあたっては、すき・うれしい（孤立孤独を解決する可能性）と課題の両方を調査し、可能性と課題をかけあわせて、なにができるのかを1～2回程度検討し、企画を作成している。



2-2 場の運営

場の運営にあたっては、前日の準備、当日の準備、場の運営（1～2時間程度）、撤収とふりかえりを一連の流れとしている。ここでは当日の運営を整理するための基本のタイムテーブルを示す。赤字は一度の企画でできることと主な時間配分を例示している。

【 企画のなまえ 】			
日時：令和6年7月26日（金） 14:00-16:00		会場：	
目的		目的は2つ程度にしぼる	
参加人数： 人			
時間	プログラム	内容	担当・準備物
13:00 13:30	会場準備 開場	・長机2つを島型にして配置（4名）6名の場合は机3つ ・1島あたり4人か6人が座れるようにイスを配置 ・知らない人と同席になるように配置 ・来た順番にお茶をふるまう	☐ 名簿 ☐ 飲み物準備 （随時配布） ☐ アンケート
14:00 14:10 14:30 14:55 15:50	開会 あいさつと研修の趣旨 【10分】 導入の時間【20分】 学びの時間【講演20分 +話し合い10分】 体験実践 【体験等45分+ 感想共有10分】 次回の案内 おわりのあいさつ・終了 【5分】	・あいさつ ・趣旨紹介 ・今日のながれを説明 ・資料の確認 ・撮影の確認 ・自分の状態を点検 ・同席の人と簡単に自己紹介する ・今日することを説明、解説する ・テーブルごとに意見を話し合う ・体験実践 ※写真、動画の記録 ・次回の案内 ・写真撮影	（主催者） （司会） ☐ 次第 ☐ 受付のペン ☐ 受付名簿 （説明） ☐ 蜘蛛の巣シート ☐ 予備のペン （説明） ☐ 動画上映準備 （説明） ☐ 実践準備 ☐ （進行）西上 ☐ 案内資料

成果②楽しみを基盤としてつながってしまう場の企画運営

〔客観的指標〕

- ・188名の集客とボランティアスタッフ17名、合計205名が集まった
- ・100人のエピソード調査からやりたいことを5種抽出し、5企画を実行
- ・支援主体の交流の場の開催とライングループを作成した（3月末で98人）

3章 村内各種団体の運営能力向上のためのノウハウ化、デザイン支援

3-1 村内各種団体の運営能力向上のためのノウハウ

運営能力を向上させるためには、企画した場の居心地の良さを向上させ、リラックスした雰囲気の中で愉しく過ごせるように準備しなければならない。

多世代が集う場合は、普段と異なる顔ぶれがひとつの会場に集うため、お茶やコーヒーカップなどを選ぶようにすると知らない人同士が対話するきっかけとなる。またお茶菓子等を提供する場合は、その準備から集うきっかけづくりになるため、安価に作ることができる季節性のある甘味は、場を和ませる効果大きい。

次に場の司会進行する司会者は、その服装や小道具によって場を盛り上げることも、静かにさせて聞き入らせることもできる。例えば、写真はカラオケ大会の司会の服装である。小道具が場の盛り上がりを予感させるものとなっている。

最後の写真は、麻雀大会のトロフィーである。麻雀は高齢男性の外出機会として企画された。実験的に数人が集まって麻雀を実施し、反響が大きかったことから、住民主体の実行委員会が立ち上がり、参加費を徴収して実施するに至っている。また参加費からランチのお弁当とトロフィーを購入しており、チャンピオンになるとトロフィーが渡され、表彰される。またトロフィーを持って記念撮影がされ、勝負するモチベーションになっている。



3-2 デザイン支援

デザイン支援は、場の企画運営をスムーズにするための書式類の作成と場の魅力を伝えるためのロゴ等の作成がある。書式類は参考資料にまとめて掲載する。本事業で作成した主な書式は、

- ・住民の可能性を調査するための書式
- ・企画を検討する書式
- ・当日の運営のタイムテーブル
- ・準備リスト
- ・取り組みを広報する新聞

ここでは、認知症について愉しく学ぶ対話型イベント「認知症世界の歩き方in北海道」を事例として、場の魅力を伝えるためのロゴ等のデザインについて紹介する。



① 北海道をモチーフとした
カギとなるデザイン



③ 当日使う資料等も同じテイ
ストでデザインする



② モチーフを使ったチラシのデザイン

成果③運営能力向上のためのノウハウ化、デザイン支援

[客観的指標]

- ・ロゴやキーデザインの作成
- ・ノウハウをまとめた書式集の制作（PDF で配布）

4章 ノウハウ移転

4-1 ノウハウ移転先の公募

更別村で実施したノウハウを活かし、十勝管内と北海道内で孤立孤独に関するプロジェクトを導入したい主体を公募した。公募にあたっては、北海道内の医療福祉関係者が1320人集っているCare Do 北海道のメンバーに対してSNSを通じて募集した。問い合わせは、十勝管内から帯広市、鹿追町、清水町の地域包括支援センター、医療法人、NPO法人等から12件の問い合わせがあった。また北海道内からは、札幌市中央区第3地域包括支援センター、医療法人、社会福祉法人、医師会等から6件の問い合わせがあった。問い合わせがあった18件には、個別に説明を実施した。その結果、十勝管内は1箇所、北海道内は2箇所のノウハウ移転を実施することとなった。

以下は導入を実施することとなった3地域

	地域	実施時期	主催
1	十勝管内	2024年12月13日	鹿追町地域包括支援センターとNPO法人かしの森の共催
2	石狩管内	2025年3月23日	札幌市中央区第3地域包括支援センターとファミリークリニックさっぽろ山鼻の共催
3	釧路管内	2025年5月に実施予定	釧路市医師会

※釧路市で実施予定だったイベントは悪天候のため年度をまたいで実施予定

4-2 ノウハウ移転の実施と伴走支援

年度内に実施した鹿追町と札幌市でのノウハウ移転の実施状況について紹介する。鹿追町は対面打ち合わせやZOOMを用いて伴走支援を実施した。札幌市は医療法人の専門職が積極的に参画したため一同に集って打ち合わせ等を行うことが難しく、関係者が全員入ったライングループ作成し、ラインで伴走支援を実施した。

	実施地域	実施	主催
1	鹿追町	2024年11月13日 11月27日 12月 1日 12月13日 12月24日	事業内容の説明 支援①（可能性と課題の収集） 支援②（場の企画運営方法） ノウハウ移転実施 支援③ふりかえり
2	札幌市	2024年11月18日 随時 随時 2025年3月23日 3月28日	事業内容の説明@ZOOM、ライングループ作成 支援①（可能性と課題の収集） 支援②（場の企画運営方法） ノウハウ移転実施 支援③ふりかえり

成果④ノウハウ移転先の公募と導入地域への伴走型支援

[客観的指標]

- ・本事業を道内の医療福祉関係者用 SNS（フォロワー1320 人）で公募
- ・十勝振興局内 1 箇所、十勝振興局外 1 箇所にノウハウ移転